

岡部氏一族の墓（附位牌）



〔指定年月日〕昭和五七年一月一日
〔種別〕史跡（墓）
〔名称〕岡部氏一族の墓（附位牌）
〔点数〕四三基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕成田東四一七一—四（天桂寺内）

岡部氏一族の墓（附位牌）

岡部氏一族の墓は寛永二年（一六二五）頃から元禄一一年（一六九八）にかけて旧成宗・旧田端両村を支配した旗本岡部氏歴代の当主およびその一族を葬ったもので、五輪塔一二基、宝篋印塔五基、隅丸方形塔一基など合計四三基である。岡部氏は一の谷の合戦で平忠度を討ち取った岡部六弥太忠澄の子孫と称し、武蔵七党の一つである猪俣党の一支族とも言われている。

岡部氏の杉並における支配時期は六〇年ほどにすぎなかったが、この墓は江戸時代初頭の成宗・田端両村の支配関係を理解する上で欠くことのできないものであると共に、杉並の一地域を知行した旗本歴代の墓としては観泉寺の今川氏のもの（都指定旧跡）と並ぶものである。

また、岡部氏が領地境に植えたといわれる杉の並木が、本区の名称の由来になったという伝承もあり、区の歴史を知る上での貴重な資料である。なお、天桂寺は岡部氏を開基とする寺院である。

【文化財所在地】

